

<p style="text-align: center;"><b>学外実習</b> (Student Internship)</p>	<p style="text-align: center;"><b>1, 2年・2単位・選択</b> <b>3専攻共通・担当 藤田 直幸</b></p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2 (80%), A-2 (20%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 (d—2d), (b)</p>
<p>〔講義の目的〕 企業・大学その他の公的機関等において、実習体験をすることにより、実践的技術感覚を体得するとともに、学習意欲の向上および専攻科修了後の進路に対する職業意識の形成等を目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 学外実習のテーマおよび内容については、本校と実習機関が協議して定める。ただし、実習先の企業等で用意されたテーマおよび内容を実務体験することもある。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 実習先で発行される専攻科学外実習証明書と実習学生が作成する専攻科学外実習報告書および専攻科学外実習日誌の提出、さらに校内で行う実習報告会での発表をもって履修条件とする。 実習中は安全に留意すること。実習者は保険に加入することを義務づける。</p>		
<p>〔到達目標〕 技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶこと。さらに自らが職業意識をどのように高めたかを説明できること。社会人としての自主性、創造性および柔軟性の大切さを知ること。 さらに、学生として残された学生時代になすべきことを再考する機会とすること。</p>		
<p>〔評価方法〕 専攻科学外実習証明書、専攻科学外実習報告書、専攻科学外実習日誌および実習報告会に基づき、学生の所属する専攻において先議のうえ、専攻科委員会の議を経て専攻科主任が総合的に判断して行う。 則として、実習先での専攻科学外実習証明書、専攻科学外実習報告書、および専攻科学外実習日誌（75%）、実習報告会（25%）の4点によって評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 なし 〔補助教材・参考書〕 平成14年度～平成24年度 学外実習報告書</p>		
<p>〔関連科目〕 実習中の体験の詳細を記録にとり、これまで学んできた専門教科との関連を調べる。実習先の技術者と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の基礎などについて話し合いをすること。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週			
第2週	1. 実施期間	10日間以上にわたり合計80時間以上従事	
第3週	2. 学外実習先	本校が認めた企業の生産研究部門及び大学その他公的機関	
第4週	3. スケジュール	学外実習ガイダンス	
第5週		・ 概要説明	
第6週		・ 実習先企業の紹介と実習内容の説明	
第7週		・ 安全教育	
第8週		・ 希望調査と割り振り	
第9週		事前研修会	
第10週		・ 学外実習の心構えなどの事前学習	
第11週		・ 講演会出席（外部講師）	
第12週		実習	
第13週		・ 実習先でのオリエンテーション	
第14週		・ 実習	
第15週		・ 専攻科学外実習報告書、専攻科学外実習日誌の作成	
		学外実習のまとめ	
		・ 実習報告会	
第16週			
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週			

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)